

守る会十周年記念号 プレ事業

写真と写生コンテスト

＜写真の部＞



最優秀賞 齋藤智恵子

— 守る会十周年記念号 —

アツケミソウ通信

第4号

平成26年10月

優秀賞
秋田征矢雄



優秀賞
赤木
紀



最優秀賞
清水
皓平(六条院小学校)



＜写生の部＞

優秀賞
大室
采香(寄島小学校)



「アッケシソウ通信」第四号 守る会十周年記念によせて

浅口市長 栗山康彦

浅口市寄島町アッケシソウを守る会がこのたび発足十周年の節目を迎えられますとともに、十周年記念号が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

二〇〇四年（平成十六年）に四十九名で発足した貴会は、今や市内外の百人を超える会員を有し、今日まで献身的な活動によりアッケシソウの保護に取り組んでこられました。

本州で唯一、寄島干拓地内のみで自生する浅口市が誇りとする貴重なアッケシソウを守り、その生育環境の整備のため、定期的な草刈りにご尽力いただき、さらにはアッケシランド訪問者への現地案内を通じてアッケシソウの魅力とその保護を呼びかけていただきました。

こうした貴会を中心とした保護活動が地域の皆さまをはじめ地元高校生ボランティア、近隣のスポーツクラブ関係者などによる除草活動の支援の輪へとつながり、秋には赤い絨毯と見違えるほどに赤く色づいたアッケシソウを見るために、多くの観

寄島のアッケシソウ 守る会努力の十年

会長 作田雅利

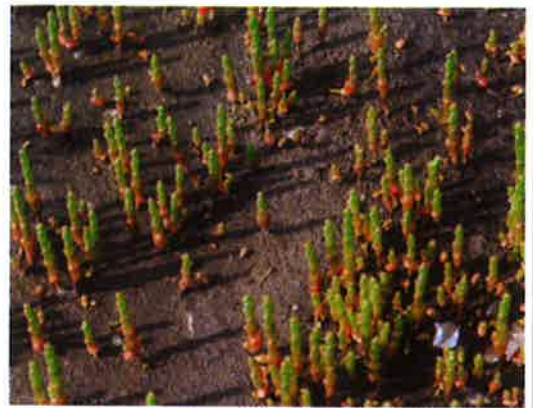
平成十六年七月、初代応本圭司会長を中心に、会員四十四名の寄島アッケシソウを守る会が誕生した。初めて見る不思議な植物アッケシソウに、夢と不安の交錯するスタートであった。

(1) 手探りの五年

保護活動を始めたものの、アッケシソウは全国的に自生地も少なく、希少植物のため参考文献が非常に少なく、殆ど手探りであった。しかし会員の気持ちは、アッケシソウが未知の植物であったことから関心も高く、逆に探究心を駆り立てることになったように思う。最初に立ち上

光客をアッケシランドにお迎えすることができまことは貴会のご活躍とご努力の賜物と深く敬意を表し、感謝申し上げます。

終わりに、浅口市寄島町アッケシソウを守る会の今後ますますのご発展と会員皆様のご活躍をお祈り申し上げます。お祝いのごことばといたします。



芽生え（早春）

げた調査研究グループには、植物好きで熱心な会員が集まり、早春の発芽期から週に三日ぐらいの周期で自生地に向き、アッケシソウの生育の様子を細かく観察記録していったのである。これらの研究資料は、二年目以降の保護活動に大きな支えとなった。この研究成果は、五周年記念誌に詳しく記載して残している。

(2) 地域の協力・若い力の支援に感謝

現在、アッケシソウの自生地は、寄島干拓西堤防の堤防敷きに五か所あるが、守る会の限界もあり、この中で保護区は、A・C地区の二か所とし、約三千平米を管理している。この保護区を年間三回（五月、六月、九月）草刈り作業を行っているが、地域の企業や学校の児童生徒の支援

が大きな支えになっている。四年前の平成二十二年からは、学校長を先頭に五月には、おかやま山陽高等学校の空手部員が約四十五名、六月には同じく山陽高等学校のサッカー部員約四十五名が土にまみれて手伝って下さり、九月には、NPO法人倉敷スポーツ倶楽部の団員と保護者の方が、寄島の三つ山スポーツ公園を利用してのお礼にと駆けつけてくださるので、会員一同感謝の言葉も無いほどである。さらに、草刈り日を土曜か日曜日に設定しているので、毎回、浅口清掃センターの社員二十数名が、パッカー車を持ってボランティアとして参加して下さるので、本当に有り難いと思っている。



緑のアッケシソウ（7月）



紅に燃える

(3) 自然の脅威・手痛い試練

平成二十五年七月、会員の一人がアツケシソウの異常変色を発見し、先端部から黒褐色の幼虫が出てきたので、茎の内部を食べていることが分かったのである。

今まで過去に茎を食べる害虫はいしたが、内部を食べる害虫は初めてであったので、すぐに岡山理科大学の星野教授に連絡を取り、薬剤の散布をしたのであるが効果が薄く、日に変色し、主な管理区域の大半が枯れてしまったのである。後で分かったのであるが、この害虫は日本で

は初確認のジャガイモキバガの仲間、アツケシソウの茎の内部に食い込み食事する為、一度食い込まれたアツケシソウは枯れてしまうことになったようである。この害虫の特定をされた鹿児島大学農学部教授の坂巻教授は、近く関係学会で報告されると聞いている。寄島干拓の自生地を探しあて、遠い外国からやってきたキバガ(牙蛾)の不思議な能力や自然の脅威を、改めて実感するとともに、自然の生き物を守ることの難しさを教えられた次第である。今年度は、この手痛い教訓を生かし、早くから対策を立ててしっかりと守っているところである。



フラワーロードの除草

(4) 活動の成果と課題

十年間に及ぶ会員の地道な努力によって、自生地の総面積は約四千平米に達している。この自生地の秋の紅葉を見学するために、県内はもとより近隣諸県から一万人を超える愛好者が訪れるようになったのである。

このような会員の努力は広く世間に認められ、平成二十一年度にはアツケシソウの紅葉が、岡山県の「景観百選」に選ばれ、また同年十一月には守る会の活動が、「岡山県民文化大賞」の栄誉に輝く快挙となったのである。続いて平成二十四年十一月には、「第一回ロータリークラブ一番星アワードの銀賞」を受賞するなど、次々と輝かしい成果を上げていく。



ハマナス紅1輪

最後に、先年この自生地の愛称を、アツケシランドと命名したのであるが、アツケシランドと呼ぶからには、単に秋の一時期だけ見学者が訪れるのではなく、一年間通して利用できる海浜公園として整備し、胸を張って次代の子ども達に残したいというのが、会員の大きな夢である。昨年、平成二十五年度の浅口市未来デッサンに応募し、自生地にフラワーロードづくりを始めたのもその一環である。広く市民の賛同を得て、実現を図りたいと願っている。



アツケシランドの紅花センブリ

アッケシソウを守る若い力と奉仕団体

おかやま山陽高等学校

現在、アッケシソウを守る会が保護管理している地区は、A・Cの二ヶ所で、約三千㎡の広さにわたる。会員百余名の内、草刈等の作業会員は二十名余りであり、年三回の作業は厳しい作業であった。

そんな中、平成二十二年から、かもがた山陽高等学校のサッカー部と空手部の皆さんが、地域に貢献したいとの願いのもとに、礼儀正しく澆刺と手伝って下さる姿に、会員一同夢と元気を頂いている。

毎回、校務ご多用の中を、原田校長自らが陣頭に立たれ、顧問の先生方や生徒たちと汗を流し、泥にまみれての支援活動は実に爽やかであり、ありがたく会員一同心からの感謝を申し上げます。

サッカー部



刈草運び

空手部



校長先生と共に



刈草集め



サッカー部への感謝状



女子部員の活躍



力を合わせて

NPO法人 倉敷スポーツ倶楽部

倉敷スポーツ倶楽部の大勢の児童の皆さんと保護者の方たちもまた、日頃三つ山スポーツ公園を利用しているお礼にと、平成二十二年から九月の草刈り作業に参加して頂いている。

指導者の指揮の下に、スポーツを愛するユニホーム姿の幼い子供さんたちと保護者の皆さんが、心を合わせ一体となつての支援活動に、会員一同まるで可愛い孫を見る思いで、笑みがこぼれ嬉しいかぎりである。

この幼い助っ人の中に、アツケシソウに深い関心を抱き、将来守る会の担い手になつて下さることを夢見ている。



男子に負けないぞ



みんなの力



お母さんと共に

有限会社 浅口清掃センター

年三回の草刈作業を土・日に設定して関係から、せつかくの休みを返上し、清掃センターの働きざかりの若い社員二十数名の皆さんが、毎回パッカー車二台を出動させ駆けつけて下さる。その献身的なボランティア活動に、勇気づけられ有り難いかぎりである。

児童生徒の皆さんが、刈り倒された雑草を大きなゴミ袋に詰め込み、力を合せて運んで来たものを、声をかけて受け取り、軽々とパッカー車に収める。また、若い社員の方々の草刈り作業は実に能率的で、見ていて頼もしく、勇氣百倍である。社員の皆さんに心から感謝したい。



フラワーロードにて



草刈り風景



パッカー車、大活躍

「守る会」研修旅行

赤穂の海浜公園を訪ねて

笠原 美佐枝

一年に一度のアッケシソウを守る会の研修旅行に参加した。今年は赤穂の海浜公園、大石神社、錦海塩田跡地のアッケシソウを訪ねた。あいにくの朝からの雨で、二十余名を乗せたバスは一路東へ向けて出発した。

まず大石神社に到着。赤穂浪士四十七名を祀った社である。討ち入りのドラマに思いを馳せながら神社に手を合わせる。

次に海浜公園に向う。

赤穂岬の西方塩田跡地にある広大な公園である。枝条架や塩の製造工程を見学した後、畳一枚程のアッケシソウ保存の地に、縄張りが出てあった。芽がやつと出かけた可憐なもので、懸命に大きくならうとしている様子にも言えぬいとおしさを覚えた。実に小規模なものであった。

最後に瀬戸内市の錦海塩田跡のアッケシソウの現地へ行く。堤防内の湿地の中に、雑草

に隠れて、広い範囲に新しい芽が出ていた。ここもまた秋には美しく紅葉するであろうと想われた。

この地のアッケシソウは自生ではなく、種を蒔いて人工的に増やしている。しかも、錦海塩田のアッケシソウを見るかぎり、地元の人達ですら、興味もなく放置されている様子に、何とも

言えぬ淋しさを感じた。浅口市寄島町のアッケシソウを守る会は、十年間地道な活動を続けて来た。その努力の

成果が、ハマナス、ハマユウのフラワールードを誕生させ、アッケシランドにさらなる付加価値を与えた。そして、本命のアッケシソウの秋を彩る美しい景観が多くの人を呼び、訪れる人の目を楽しませ、心を癒すすばらしい自然公園に育ちつつある。

今日の研修旅行を無駄にしないように今後の活動に役立てたいと思う。そんな思いを抱き一日の行程を無事終了した。



赤穂海浜公園にて

「守る会」十周年記念プレ事業 写真・写生コンテスト

「守る会」十周年記念プレ事業の一環として行われた写真・写生コンテストは、写真の部は平成二十五年二月五日に締め切られ、写生の部は十月十九日(土)に、浅口市内の小学校五年生がアッケシランドに集い、写生大会が開催された。

厳正な審査の結果、両部門の入賞・佳作者は次の通りである。

【写真の部】

- ▽最優秀賞 齋藤智恵子
- ▽優秀賞 秋田征矢雄 赤木 紀
- ▽特別賞

- 市長賞 山本 淑朗
- 議長賞 田辺 昭子
- 会長賞 荒川 茂正
- 佳作 清水 周策 藤代 芳寿 片山 操 花房 泰志

【写生の部】

- ▽最優秀賞 清水 皓平(六条院小学校)
- ▽優秀賞 大室 采香(寄島小学校)
- ▽特別賞 三宅 亜依()

- 市長賞 黒川 夢乃(寄島小学校)
- 議長賞 中浜 朱音()
- 会長賞 笠原 悠希()
- 佳作 片岡 ゆい() 渡辺 悠明(金光小学校)

守る会 会員大募集!

「貴方のご参加を待っています」

「守る会」会員は現在百余名で、会員のご支援ご協力によって、大切に保護育成されています。さらにも、おかやま山陽高校サッカー部員と空手部員の皆さんの若い力、NPO法人倉敷スポーツ倶楽部の小学生と保護者の皆さん、浅口清掃センター社員の皆さん等の力強いご支援に、守る会一同勇気づけられ元気を頂いています。守る会会員も年齢を重ね、市内の皆様のご入会をお待ちしています。

- ①年間会費は五百円で、会の運営費に充当します。
- ②年三回(四月・六月・九月)の草刈り作業可能な会員大歓迎です。
- ③守る会の研修親睦旅行を行います。今年は赤穂の海浜公園等を訪ねました。
- ④アッケシソウ祭りを十月に行っています。ガイド会員も大歓迎です。

編集後記

「アッケシソウ通信」第四号(「守る会」十周年記念号)

をお届け致します。ご多忙の中を早速の玉稿を賜り、紙上より厚く御礼申し上げます。

昨年は「守る会」十周年記念プレ事業の一つとして、アッケシランドに、フラワールードを設置。約三百メートルの道の両側にハマナスとハマユウを植えました。今夏、早くもハマナスが可憐な紅の花を数輪咲かせました。やがてこのフラワールードを彩る紅白の清楚で美しい花回廊の出現が期待されます。

浅口市の宝物アッケシソウは、市当局の篤いご理解とご支援、さらに浅口市民皆様方のご協力なくしては、生き永らえることは出来ません。どうぞ皆様の温かいご協力をお願い致します。